

世界遺産・首里城。青空に朱色が映えて、異国情緒たっぷりの空間です



2年生の3学期から、この修学旅行に向けて平和学習を積み重ねてきました。沖縄戦の様子、ガマ(自然壕)での避難生活、米軍の基地問題など様々な視点から調査し、発表してきました。平和学習と並行して、沖縄の自然や文化、伝統なども調べながら、生徒が心待ちにしていた修学旅行でした。

4月15日朝6時、多くの保護者の方々の見送りの中、バスが出発。みんな期待に満ち溢れた顔をしていました。蒜山で休憩の後、岡山空港へ。飛行機は初めてという生徒が多く、緊張

の中、機体は離陸していきました。快適な空の旅が続いていると眼下にコバルトブルーの海が広がってきました。いよいよ沖縄に到着です。

ガイドさんに連れられてバスに乗り、首里城へ。守禮門で記念撮影を済ませて、首里城に入りました。さすがに世界遺産、その美しさ、色鮮やかさにあちこちから歓声があがり、記念撮影が始まりました。

首里城をあとにして琉球村へ。昔の沖縄の様子が再現してあり、エイサーやサトウキビ作りを見学したりして有意義な時間を過ごせました。

この日の宿は海のそば。波の音を聞きながら就寝でした。4月16日の午前中は、目の前の海でマリントレーニング、シュノーケリング、ドラゴンボート、沖縄のサンゴ礁と海を満喫しました。これは沖縄に来て最高の経験になったようです。

午後は班別自主行動でした。タクシーの運転手さんに案内されて楽しく過ごし、最後は国際通りでの買い物。両手に荷物をいっぱい下げてホテルに帰って

くる生徒は笑顔でしたが、疲れもありました。

4月17日、最終日。この日は平和学習の日でした。アプチラガマに入り、真っ暗闇の体験をしました。これは体験した者でないと分からないでしょう。このあと摩文仁の丘、ひめゆり資料館と回って平和の尊さを改めて実感していました。

那覇空港から岡山へ。2度目のフライトは生徒にも余裕が感じられました。

3日間、中身の濃い、とても意義深い旅行ができたと思います。ありがとうございました。



沖縄の青い青いサンゴの海で泳いだことが、修学旅行で最高の体験でした



「出土した土器を貼り合わせるとこうなります」と八峠主事

「土器は、教科書で見たりずっと迫力がありました。いろんな形がある事や、深い土の中に埋まった土器の方が古いことなどもクイズ形式で学習できました。石包丁にさわった時、昔の人はどうやって作ったのかなあと不思議な気持ちになりました」

5月7日(金)、県埋蔵文化財センターの八峠興主事さんの「考古学出前授業」で学んだ6年生の感想です。

この日は気温が高く乾燥していて、火の着きやすいコンディションでした。まいきりによる火起こし体験には、エイミー先生も6年生にまじり特別参加。とっても早く火起こしされました。



「みんなの呼吸が大切なんですよ」

自然にある物を使って道具を作っていたなんてとてもすごいことです。石を削ったり、穴をあけたりして自分たちが使いやすいように工夫していたその知恵に驚きました。

6年生は出土品を観て、「2千年も前の物が、土を掘ったら出てくる考古学ってすごい。初めてさわる土器や石おの、はしごなど、こんな物を使ってもらっていたんだな。使ってみたいなあ」と話していました。たくさん感想が寄せられたので、まとめて掲載します。

すごい昔の物なのに、きれいな形で残っていた船のオールは、青谷の遺跡から出てきたそうです。水田の水を調節する大きな板は、三角形で土の中に差し込みやすいようにとがっていました。これも昔の人の知恵です。

この出前授業を通して、考古学のおもしろさが十分に伝わったようです。考古学博士がこれからの発掘に協力する日は近いですね。

